



新聞社説からみた20世紀末20年の日本の教育問題
-中曽根・臨教審前から小泉・構造改革前まで-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2008-05-21 キーワード: 作成者: 門脇, 正俊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00005595

新聞社説からみた20世紀末20年の日本の教育問題

— 中曽根・臨教審前から小泉・構造改革前まで —

門 脇 正 俊

北海道教育大学岩見沢校学校教育教室

Educational Issues of Japan in the Last 20 Years of the 20th Century from Leading Articles of Newspapers

— From 1981 to 2000 —

KADOWAKI Masatoshi

School Education, Iwamizawa Campus, Hokkaido University of Education

概 要

前稿「新聞社説から見た21世紀5年間の教育問題」の続編として、前稿の補足とその前史としての1981～2000年の新聞社説記事から、20世紀末20年間の教育問題の整理を試みた。小泉政権下での5年間の構造改革路線は、安倍晋三氏を中心とした後継者たちによって受け継がれようとしているが、規制緩和・民間活力を重視する政策論議が高まり、教育自由化論や民営化論までも表面化してきた中曽根臨教審から小泉政権誕生までの流れを、新聞社説に焦点を置いた考察によって振り返る。81年代前半は「校内暴力」が荒れ、80年代半ばから「いじめ」問題が表面化するが、関連して「体罰」を含む管理強化への批判も多くなってくることが、社説動向からもうかがわれる。中曽根政権下での臨教審の設置過程や審議状況に関する社説は多いが、期待より警戒や批判が多い。臨教審後は高校教育改革や学校五日制問題が多くなり、また、大学設置基準緩和を契機に、規制緩和や自由化問題も取り上げられてくる。20世紀末の99年には国旗・国歌法が制定され、2000年には教育改革国民会議で教育基本法改定が提起され、愛国心問題が再燃するが、小泉政権下での構造改革では国立大学法人化を中心とした大学改革や義務教育財源移譲に重点が置かれ、初等中等教育や教員養成を対象とした国家主導の改革が、愛国心の強化と競争原理の拡大を軸に安倍政権に引き継がれようとしている。なお、本稿では、21世紀問題との関連は重視しつつも、1980年代と90年代の教育動向の全体的把握にも努めた。

はじめに

前稿の「新聞社説からみた21世紀5年間の日本

の教育問題」において、筆者は2001～2005年の朝日・毎日・読売・北海道の4紙の「教育・子ども」関係社説一覧を作成して紹介すると同時に、分野

別社説題目の整理を含めて教育問題の概観を行った。

本稿では、21世紀教育問題の出発点でもある中曽根行政改革にまでさかのぼって20年間の教育動向や教育改革（論）を中心に考察するために新聞社説の調査を開始したが、小泉構造改革やその後継者たちの教育再生構想に限定せず、できるだけ広い視野から20年間の教育問題を把握するように努めたい。

本稿で1981～2000年を考察の対象としたのは、前稿で取り扱った21世紀5年間（2001～2005）の教育問題の系譜を辿るということがあったが、それを含めた四半世紀（25年間）という数的区切りへのこだわりもあった。しかし、歴史的推移や系譜と年数的区切りが必ずしも一致するわけではなく、あくまでも結果からみた大雑把な関連付けにすぎない。

なお、本稿で考察対象の20年間は20世紀末というにはあまりにも長いし、90年代10年間又は後半5年間だけを対象とすべきではないかという批判もあるかもしれない。また、21世紀に入ってから教育問題との関連でも、「ゆとりと生きる力」をキャッチフレーズとした2002年実施の新学習指導要領の骨格は1996年中教審答申で提起され、98年学校教育法施行規則改訂や文部大臣告示で政策化されたし、21世紀に増加する学校選択制の先鞭となった品川区での導入は2000年度であり、その引き金となった通学区域の弾力的運営についての文部省通達は97年である。しかし、「ゆとり教育」は既に1977年学習指導要領改訂を受けて80～82年度から実施され、地方分権や民営化といった規制緩和政策も80年代前半の行政改革（第二次臨調）や80年代の中曽根行政改革と関連している。小泉構造改革の起点は80年代中曽根臨教審前にさかのぼるのである。

I. 20世紀末20年間の概観

1980年代は「ゆとり教育」の実施でスタートした。1957年のスプートニクショックを契機とした

国際的な科学技術教育競争に刺激され、日本でも60年代に教育内容の高度化や肥大化への取り組みが行われた。分厚くなった68年改定の学習指導要領や教科書は、進学競争の過熱化とともに、授業についていけない生徒の増加をもたらし、非行や校内暴力などの原因にもなっているとの反省から、77年からの改定で「ゆとりと充実」がキャッチフレーズだとされる新学習指導要領が告示され、小学校は1980年、中学校は81年、高校は82年から実施された。他方で、83年には文部省初等中等局長通知「校内暴力等児童生徒の問題行動に対する指導の徹底」を受けて学校の管理体制の強化が進められたが、逆にいじめ問題も深刻となり、86年文部大臣談話「いじめ問題の根絶について」が出されたりしている。

1980年7月就任した鈴木善幸首相のもとで行政改革担当大臣を務め、82年11月から鈴木首相に代わって政権を担当した中曽根首相は、イギリスのサッチャー政権の市場主義に刺激されながら行政改革に意欲を示し、専売公社を日本たばこ産業会社（84.8）に、電電公社をNTT（84.12）に、国鉄をJR分割各社（86.10）にと、民営化を断行した。小泉首相の郵政民営化は、その流れの中にあり、84年8月に設置された臨時教育審議会も教育自由化論を中心に討論が白熱化した。

臨教審前半の議論で注目された香山健一委員を中心とした自由化論は、有田一寿委員等や文部省事務局との対立の中で、実をとる形で「規制緩和」にシフトを移していく。臨教審は、「個性重視の原則」「生涯学習体系への移行」「社会の変化への対応」を改革の柱に、大学入試改革、単位制高校、6年制中等学校、民間活力の導入、初任者研修制度、教科書検定手続簡略化、秋季入学などの提言を行ったが、臨教審後にまず着手されたのが大学の規制緩和と高校多様化の推進であった。88年に単位制高校が制度化され、90年に共通一次に代わったセンター試験が実施され、91年には大学設置基準改正（基準緩和）が行われた。全員5教科受験ではなく、科目ごとの利用を可能とした入試センター試験の改革は、個性重視の原則に相応し、

個性的な学習を促し私学参加を拡大していったが、他方で高等普通教育の学習成果を総合的に評価する側面が後退し、単位制高校や93年の総合学科設置などとともに、高校や大学の多様化を促進することになった。

臨教審での教育自由化論を契機とした義務教育段階の規制緩和は、97年の通学区域弾力化通知後の小規模特認校制度の増加や首都圏での公立小中学校選択制の導入をもたらしたが、21世紀に引き継がれた重要な改革課題となっている。教育行政の地方分権化や民間活力の導入も90年代末から規制緩和政策として取り組まれ、義務教育費委譲や教育委員会制度改革等の問題として21世紀に引き継がれている。なお、同じ総理大臣諮問機関でも、20世紀最終年に審議・報告を行った小渕・森総理の私的諮問機関であった教育改革国民会議とは異なり、臨教審が国会で審議・承認された臨時教育審議会設置法に基づいて設置され、教育基本法に則った審議という枠があったことにも注目すべきであろう。

Ⅱ. 問題別概観

以下、15分野のそれぞれについて、朝日、毎日、読売の3全国紙の社説題目を紹介しながら、簡単な概観を行うが、前稿の21世紀5年間で97本と一番多かった「大学」関係社説は、今回も最も多かったが、以下の紹介からは割愛した。

1. 新聞社説と若者・子どもへの期待

—「成人の日」と「こどもの日」の社説概観—

新聞社説には、その時々を生じた国内外の重要な事件や政策課題などに関する多様なテーマだけでなく、ほぼ毎年同じ時期に、同様の課題が多様な表現で繰り返し取り上げられてきている課題もある。後者は、例えば成人の日、こどもの日、敬老の日、体育の日、文化の日などの祝日や新学期、夏休み開始時、読書週間、大学入試センター試験時期などである。例えば成人の日の朝刊には、それぞれの新聞社スタッフによる様々な表現・内容

で、成人する若者へのメッセージが社説で取り上げられることが多く、各紙各年度の同じ日の社説題目を眺めるだけでも面白い。

ほぼ毎年の成人の日に社説メッセージを発してきた読売新聞の1981～2000の社説テーマを列挙してみると、「社会に若者らしく参加せよ」(1981年)、「おとな社会にどう参加する」(82)、「趣味の人生だけに逃げ込むな」(83)、「新しい世紀を担う成人に」(84)、「新しく成人する若者に望む」(85)、「新成人に求めたい連帯の意識」(86)、「はたちの自分史を振り返る」(87)、「『平成』時代を担う新成人へ」(89)、「若者よ、もっと人と交わろう」(90)、「『やさしい社会』を担う新成人」(91)、「新成人とともに『やさしい社会』を」(92)、「若者の『社会志向』に期待する」(93)、「206万新成人の皆さんへ」(94)、「『人に迷惑をかけぬ』この意味」(95)、「若者のやさしさと感性に期待」(96)、「21世紀を担う若者への期待」(97)、「若者のしなやかさに期待」(98)、「『50歳』の成人の日に寄せて」(99)といった表現で、その時々々の状況も反映した若者への期待や課題が提起されている。

しかし、このような若者へのメッセージを、肝心の若者自身がどれだけ読んでいるのであろうか。かなり前の社説であるが、1989(平成元)年1月15日の朝日新聞が「社説を読まない若い世代へ」という面白いテーマの社説を掲げていた。そこでは、大人になったことの自覚の1つとして新聞社説を読むことを勧めていたが、その際に新聞報道に関する87年の同社世論調査を紹介して、念入りに読む記事として「社説、投書、コラム」を挙げている20台前半は4.4%で、社説に限るともっと低いはずと指摘していた。

前稿で紹介した大学生たちのレポートでも、新聞を読む習慣があまりなかった学生たちが、社説を読むことの面白さや大切さに気づいてくれたことに言及した。

なお、朝日新聞の成人の日の他の社説題目を紹介すると、「自らを開拓する『成人の日』」(1981)、「青年の未来に期待する」(82)、「新成人たちへの小さな注文」(83)、「二十代をどう生きるか」

(84), 「若さの反発力を生かそう」(85), 「君、ひとつやってみたまえ」(86), 「若草は焼かれて育つ」, 「知的好奇心をいつまでも」(90), 「新成人へ『ケチ』のすすめ」(91), 「自分探しの旅へ」(92), 「次の世代に『手紙』を書こう」(93), 「生後7千日の分水嶺に」(94), 「自分で考える大人になろう」(95), 「成人の日にふとつぶやく」(97), 「20歳の君へ、今を心豊かに生きて」(99).

毎日新聞では、「若い世代の役割に誇りを」(82), 「若者は政治に目を向けよ」(83), 「『若者の年』を实らせよう」(85), 「大人になるということ」(86), 「『成人式おめでとう』の前に」(87), 「次の時代を担う新成人へ」(88), 「国際社会に生きる君たちへ」(89), 「成人の日に考えたいこと」(90), 「豊かな社会の若者への期待」(92), 「若者よ、政治に関心を持とう」(93), 「『大きな生きがい』の発見を」(94), 「携帯を切って街に出よう」(2000)

「成人の日」以外にも、若者についての論評やメッセージが、しばしば社説でも取り上げられてきた。4月1日入社式前後の社説で発せられることも多い新社会人へのメッセージもそうであるが、成人式の1月や就職の4月だけでなく、いろいろな時期に登場している。

[毎日]

- ・若者たちの意識に留意を (毎日82.8.17)
- ・若者の明日のために (毎日83.10.6)
- ・日本の若者の自分主義 (毎日84.2.13)
- ・どう伸ばす若者の参加意識 (毎日84.12.14)
- ・若者の生きがいと回り道 (毎日85.4.23)
- ・多様化する現代の青少年 (毎日85.12.31)
- ・若者像は大人社会を写す鏡 (毎日86.12.17)
- ・正義感若者たちの宝だ (毎日86.12.26)
- ・若者の個性を生かす社会を (毎日91.6.30)
- ・フリーター、働く意欲をもっと考えよう (毎日00.7.1)

[朝日]

- ・夢を持ってない時代の青年 (朝日84.2.14)
- ・若者は人生80年を複眼的思考で (朝日84.3.20)
- ・遊び方を知らぬ若者たち (朝日84.4.17)
- ・育てたい若者の社会参加 (朝日84.12.13)
- ・若者・春そして文化 (朝日85.4.7)
- ・「青年の年」に終わりはない (朝日86.1.6)
- ・若者は追い詰められている (朝日86.8.14)
- ・君たちはどこへ行くのか (朝日86.12.19)

- ・「青年の船」はどこへ (朝日88.5.4)
- ・若者の姿はどこに (朝日89.4.24)
- ・なぜ若者は幻の世界に住むか (朝日89.8.28)
- ・若者40余万人のために (朝日90.3.26)
- ・若い君と8.15を考える (朝日90.8.15)
- ・社会に船出した若者たちへ (朝日91.4.1)
- ・酒と節度と若者と自販機 (朝日93.10.11)
- ・若者たちはどこへゆく (朝日94.7.3)
- ・新入諸君、「野心」を持とう (朝日96.4.1)
- ・若者と大人とモラルと (朝日97.1.7)
- ・就職前に自分を磨こう (朝日97.2.27)
- ・若者の「12月8日」 (朝日97.12.7)
- ・新社会人、徒手空拳で行こう (朝日98.3.31)
- ・新社会人、泣くことが大切だ (朝日99.4.1)
- ・学生ボランティア、もっと地域に飛び出せ (朝日99.12.16)

[読売]

- ・新たな人生劇に挑む若者へ (読売81.3.30)
- ・青年は地域防災の先頭に (読売81.9.1)
- ・若々しくない青少年の意識 (読売81.12.12)
- ・新しい社会人に望む (読売82.4.1)
- ・青少年に自立の心を育てよう (読売82.6.28)
- ・新人は社会に活力と暖かさを (読売83.3.31)
- ・気掛かりな若年層の失業増加 (読売85.3.6)
- ・さわやかだった若者の祭典 (読売85.9.7)
- ・青春の栄光と挫折の思い出 (読売86.7.17)
- ・若者たちのボランティア熱 (読売87.8.16)
- ・青少年対策は議論より実践だ (読売89.6.20)
- ・若者の自分本位な音の暴力 (読売89.10.6)
- ・「自立と参加」の新・働く若者像 (読売91.4.2)
- ・「最近の若いもの」の労働感 (読売91.7.27)
- ・「若さ」を企業変革のバネに (読売92.3.30)
- ・若者よ、自立した消費者になれ (読売93.1.18)
- ・新社会人に望まれる学ぶ姿勢 (読売94.4.4)
- ・人間関係に不器用な若者たち (読売99.1.9)
- ・「個」をみがく社会人になろう (読売99.4.1)
- ・若い世代が示す憲法意識の変化 (99.4.9)
- ・憂うべき若者の失業と無行? (読売99.10.8)
- ・少子化が迫る若者の意識変革 (読売00.6.30)

ついでに「こどもの日」の各紙社説題目を概観してみる。子どもの問題は親や社会の問題でもあり、若者の場合と違って、親を中心とした大人へのメッセージが主である。

読売新聞:

「こどもが自立する日のために」(81.5.5), 「あなたは子供が見えますか」(82), 「子供にとっていま家族とは」(83), 「子供たちに『遊び』の復

権を」(84),「豊かな時代の子に欠けるもの」(85),「子供の心を読み取っているか」(86),「子供の人権は守られているか」(87),「『よく遊べ』の時代をもう一度」(88),「家庭が子どもに伝えるものは」(89),「ふるさとを愛する子どもに」(90),「『子どもの生活』を取り戻そう」(91),「世界激動下の『こどもの日』」(92),「子供はいつくしまれているか」(93),「子供の『自由時間』を増やすには」(94),「子供の自立をはぐくむ」(95),「子供たちに『やりとり』の復活を」(96),「『よい子』の意味を問い直そう」(97),「子どもの居場所をふやそう」(98),「こどもに生きる重みを教えたい」(99),「本を友にする子どもに育て」(2000)

朝日新聞:

「いま親であること責任」(1981.5.5),「親は子どもとどうつきあうか」(82),「こどもを考える三つの心構え」(85),「こどもに合わせない一日を」(86),「子どものための校則見直しを」(88),「『こどもの日』に親たちへ」(89),「子育てはつらくとも」(90),「部屋から飛び出そうよ」(91),「志ん生と木曾ヒノキと子ども」(92),「みんなで悩んで大きくなった」(93),「こども,においを音を失った」(95),「お母さん,公園を離れては」(96),「『普通』って,いいこと」(97),「こどもの日に,『普通の子』なんていない」(98),「こどもの日,冒険遊びを広げよう」(99)

毎日新聞:

「子供に自然との接触を」(1981.5.5),「親も子もせわし過ぎないか」(82),「子供観は変わったか」(83),「“子ども”の世界を考える」(84),「こどもの幸せと育児休業」(86),「子ども時代の幸せを考える」(87),「こどもは果たして幸福か」(88),「遊びは子どものビタミンに」(90),「子どもの輝くものを大切に」(91),「競争よりも共生を大切に」(92),「子ども,オンブズマン制度の勧め」(93),「こどもの日,大人は心開いて意見聞こう」(94),「こどもの日,放置許されない児童虐待」(99),「こどもの日,復活させたい子供らしさ」(2000)

なお,「こどもの日」ではないが,「児童権利条

約」など子どもの権利に関して下記のような社説があった。

- ・「子ども条約」でもっと議論を(朝日90.9.6)
- ・子ども条約で骨太の審議を(朝日92.3.29)
- ・問われる大人の人権感覚(朝日93.5.31)
- ・権利条約を教室から生かそう(朝日94.4.18)
- ・子どもの人権を尊重せよ(毎日83.7.11)
- ・子どもの権利条約を歓迎する(毎日89.11.22)
- ・発効する子供の権利条約(毎日90.8.13)
- ・子どもサミットへの期待(毎日90.9.30)
- ・教育,権利条約と教師の意識改革(毎日93.6.22)
- ・子供の人権は守られているか(読売87.5.5)
- ・子どもサミットを成功させたい(読売90.1.30)
- ・子供サミットと日本の課題(読売90.9.24)

2.「認定こども園」誕生に関連する保育問題や幼保一元化論

小泉首相最後の国会終了間際の2006年6月,「就学前の子どもに関する教育,保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が成立し,同年10月から施行され,従来の保育所や幼稚園に加えて,両者の機能を統合した新しい保育施設「認定こども園」が誕生することになる。少子化に伴う幼稚園の経営危機と共働きの増加に伴う保育所不足に対応するため,保育時間の延長,法定年齢の3歳でなく2歳からの幼稚園入園を認めた小泉政権下での構造改革特区での試行の発展であるが,厚生(労働)省下の保育所と文部(科学)省による幼児二元行政を接近・一元化する議論はかなり前から存在していた。

まず,21世紀5年半の社説記事から「保育」に関する社説を紹介してみる。

- ・保育と教育,一本化への道筋示せ(朝日05.1.15)
- ・保育所不足,もっと空き教室を活用して(毎日02.4.21)
- ・保育所増設,育児のコストを惜しむな(毎日01.6.26)
- ・夜間保育所,もっと増やしたい(毎日01.2.27)
- ・こども園,幼保一元化への遅すぎた一歩(読売06.3.23)
- ・保育所不足,民間活力の導入が欠かせない(読売03.10.27)
- ・保育所不足,民間活力の導入が欠かせない(読売03.10.13)
- ・保育所不足,待機児解消に民活生かせ(読売01.8.16)

20世紀末20年間の「保育」関係社説記事は以下

の通りである。

- ・夜間保育所、もっと増やしたい (朝日01.2.27)
- ・保育所も変わらなきゃ (朝日97.3.5)
- ・幼稚園だけの話でなく (朝日86.7.18)
- ・幼児行政の混乱をなくそう (朝日82.3.16)
- ・幼児は二種類に分けられぬ (朝日81.6.25)
- ・保育所は子育て支援の基盤だ (読売98.5.20)
- ・保育所も規制緩和で活性化を (読売94.1.23)
- ・幼児教育の過熱を見直す視点 (読売86.7.18)
- ・夜間保育の対策を進めよ (読売83.8.2)
- ・幸せな幼年期と苦しい思春期 (読売82.12.19)
- ・幼稚園児の教育をゆがめるな (読売82.4.13)
- ・「幼保一元化」は空論だろうか (81.6.29)
- ・噴出した保育行政の矛盾 (読売81.3.14)
- ・ベビーホテルはなぜ増える (読売81.2.18)
- ・保育所不足、もっと空き教室を利用して (毎日02.4.21)
- ・保育所増設、育児のコストを惜しむな (毎日01.6.28)
- ・保育所、子供という希望を育てよ (毎日97.1.14)
- ・保育所に保父の参加を (毎日86.12.9)
- ・夜間保育所設置を急げ (毎日83.3.16)
- ・夜間保育の充実をはかれ (毎日81.3.16)

3. 国旗・国歌をめぐる問題

2006年9月22日の各紙は、21日の東京地裁国旗・国歌訴訟判決を大きく取り上げ、各紙とも22日(朝日、読売)と23日(毎日、北海道)の社説で論評していた。この問題は1989年学習指導要領が入学式や卒業式などでの国旗・国歌の掲揚や斉唱を「指導するものとする」と、それまでの「……望ましい」表現から記述変更したことを契機に教育委員会の指導が強まり、99年2月に広島県立高校校長が教職員との板ばさみにあって自殺した事件とそれを契機とした小渕政権下での国旗・国家法の制定(99年8月)がある。国旗・国歌法の制定過程では、朝日と毎日が批判的な社説を、読売が支持する社説を掲げていたが、先日の東京都教育委員会が敗訴(控訴)した東京地裁判決に対しても朝日と毎日は歓迎し、読売が「不可解な判決」と疑問を投げかけていた。

スポーツの世界ではオリンピックはもちろん、朝日新聞や毎日新聞社が主催する夏と春の甲子園高校野球でも、国旗掲揚・国歌斉唱が行われるようになっていて、そのことを読売も指摘しているが、全員参加の学校行事での義務付けや処分を伴

う行政指導は思想・良心の侵害につながる問題であろう。とりわけ朝日新聞が、この問題に厳しい問いかけをくり返し行ってきたいて、取り上げた社説数も非常に多い。以下、各紙の社説題目を紹介する。

- ・国を愛するとは何か (朝日新聞82.8.15)
- ・心の国際化とナショナリズム (朝日87.1.1)
- ・日の丸・君が代と文部省と (朝日90.7.18)
- ・日の丸が揚がったとしても (朝日91.7.28)
- ・日の丸は何を象徴すべきか (朝日91.11.26)
- ・君が代斉唱、強制は流れに反する (朝日99.3.2)
- ・日の丸・君が代、なぜ、いま法制化か (朝日99.6.26)
- ・日の丸・君が代、強制では解決しない (朝日99.6.26)
- ・日の丸・君が代、法制化に反対する (朝日99.5.20)
- ・日の丸・君が代、指導要領を問い直せ (朝日99.6.26)
- ・国旗・国歌法案、矛盾がますます広がる (99.6.30)
- ・国旗・国歌法案、公聴会は出発点だ (朝日99.7.9)
- ・国旗・国歌法案、結局、強制にならないか (朝日99.7.23)
- ・国旗・国家法、選択の自由を奪うまい (朝日99.8.10)
- ・国旗・国歌、誰のための卒業式 (朝日00.3.1)
- ・国旗・国歌、大人がムキになる愚 (朝日04.3.18)
- ・国旗・国歌、起立せずで処分とは (朝日04.3.31)
- ・国旗・国歌、甲子園とは話が違ふ (朝日04.4.2)
- ・国旗・国歌、産経社説にお答えする (朝日04.4.4)
- ・国旗・国歌、論争が大人に広がった (朝日04.4.13)
- ・国旗・国歌、生徒を苦しめるな (朝日04.5.27)
- ・国旗・国歌、園遊会での発言に思う (朝日04.10.30)
- ・国旗・国歌、卒業式を生徒に戻そう (朝日05.4.1)
- ・国旗・国歌、ここまでやらずとも (朝日06.3.15)
- ・君が代判決、教育に刑罰は似合わぬ (朝日06.5.1)
- ・国旗・国歌、「強制は違憲」の重み (朝日06.9.22)
- ・国旗・国歌で亀裂を広げるな (読売85.9.9)
- ・「国旗・国歌」問題にはじめを (読売99.3.4)
- ・国旗・国歌へ改めて示された指示 (読売99.4.3)
- ・国旗・国歌の法制化を支持する (読売99.6.13)
- ・国旗・国歌論議に必要な常識 (読売99.6.30)
- ・国旗・国歌の「確認」が必要だ (読売99.7.23)
- ・国旗・国歌にはじめがついた (読売99.8.10)
- ・国旗・国歌で卒業式を荒らすな (読売00.2.4)
- ・国旗・国歌、卒業式も国際的標準を視野に (読売04.3.1)
- ・国旗・国歌、甲子園では普通のことなのに (読売04.3.31)
- ・国旗・国歌訴訟、認識も論理もおかしな地裁判決 (読売06.9.22)
- ・いま、なぜ「日の丸・君が代」(毎日85.9.7)
- ・学校と日の丸・君が代、なぜ (毎日89.6.14)
- ・日の丸・君が代強制に疑問 (毎日90.4.8)
- ・日の丸判決が指摘したこと (毎日93.3.25)

- ・日の丸・君が代, 広く, 深く論議する場を (毎日99.3.4)
- ・日の丸・君が代, 法制化を急ぐ必要はない (毎日99.5.21)
- ・国旗・国歌法案, 駆け込み提出に意義あり (毎日99.6.12)
- ・日の丸・君が代, 世論は微妙に動いている (毎日99.7.16)
- ・日の丸・君が代, 内申の自由の保障を (毎日99.8.10)
- ・卒業式と国歌, 強制しないことの定着を (毎日00.3.3)
- ・国旗・国歌, 都教委の姿勢は本末転倒 (毎日04.4.6)
- ・国旗・国歌, 「心の自由」を侵害するな (毎日06.9.23)
- ・「君が代」斉唱, 心から歌えましたか (北海道01.3.20)
- ・国旗・国歌, 処分で浸透するののか (北海道01.7.29)
- ・「君が代」強制, 生徒の意見無視するな (北海道02.2.20)
- ・君が代判決, 教育現場の萎縮が心配だ (北海道06.6.1)
- ・国旗国歌, 違憲判決が鳴らす警鐘 (北海道06.9.23)

4. 社説に見る教員問題

青少年問題を含めて教育問題が社会問題化する際, その目は教師に注がれることが多い. 様々な教育改革論議も結局は学校教師の日常の実践・努力に依存する. 従って, 教育批判や教育改革論はしばしば教師批判や教員養成批判となって表れてくる.

[読売]

- ・結局は教師一人一人の力量に (読売81.7.9)
- ・先生が学ばねばならないこと (読売83.1.14)
- ・荒廃を救うのはやはり教師だ (読売83.2.19)
- ・いつの世も教師は期待される (読売83.6.17)
- ・かけがえのない教師の教育力 (読売85.1.16)
- ・教員の資質向上を考える手順 (読売85.7.26)
- ・教師に厳しい試練のとき (読売87.2.17)
- ・いま教師に求められるもの (読売87.10.12)
- ・ほしいのは個性豊かな教師だ (読売87.12.20)
- ・初任者研修を実りあるものに (読売88.5.27)
- ・教師は互いに学んでこそ (読売88.10.27)
- ・変わる教員免許制度への注文 (読売88.12.4)
- ・教師は子どもを励ましてこそ (読売89.3.25)
- ・教師の逸脱を叱った判決 (読売90.1.20)
- ・新学期, 先生たちに望むこと (読売90.4.7)
- ・先生に期待する「変わる教室」 (読売92.7.30)
- ・先生に求めたい意識の変革 (読売93.1.16)
- ・教師は外で学んでこそ (読売95.8.7)
- ・個性豊かな先生がおいしい (読売96.5.6)
- ・「学校」を問い直し始めた教師 (読売96.2.6)
- ・教師に豊かな社会経験を (読売96.6.7)
- ・教師の意識が変わり始めた (読売97.1.20)
- ・個性的な教師を育てたい (読売97.7.29)
- ・先生の創意と力量が問われる (読売97.11.20)
- ・自らを問い始めた教師たち (読売98.1.28)

- ・先生も「総合的に学ぶ」時代 (読売98.8.20)
 - ・変革期を迎えた教師に二つの顔 (読売99.2.1)
 - ・教師も学んでほしい「世間の風」 (読売99.12.11)
 - ・「子どもの問題」わかる教員養成 (読売00.5.11)
 - ・教員養成大学, 学校現場との密接な連携探れ (読売00.9.4)
- [毎日新聞]
- ・“生徒を刺す教師”の衝撃 (毎日83.2.17)
 - ・子どものための先生を (毎日83.6.16)
 - ・先生への門を狭めるな (毎日83.11.23)
 - ・外国人にも教員の門を開け (毎日84.12.29)
 - ・校内暴力が招いた先生の死 (毎日85.2.3)
 - ・小学生の自殺と教師の責任 (毎日85.2.19)
 - ・実効疑わしい新任教員研修 (毎日85.10.9)
 - ・教えることの重みを考える (毎日86.1.5)
 - ・教師が本音で語り合うとき (毎日86.1.24)
 - ・教員採用もっとオープンに (毎日86.2.24)
 - ・教師の教職観と子ども観 (毎日86.5.24)
 - ・教職に誇りが持てる制度 (毎日87.12.22)
 - ・教師の心が欠けたアルバム (毎日88.3.31)
 - ・いい先生を育てるためには (毎日86.6.1)
 - ・物言わぬ教師を作る最高裁 (毎日90.1.20)
 - ・教師の「教育的熱意」を問う (毎日90.7.16)
 - ・教員採用, 若い先生がいなくなる (毎日96.5.31)
 - ・教員養成, いい先生を社会に支援で (毎日97.8.2)
 - ・教員養成, ゆとりの中でいい先生を (毎日98.11.2)
 - ・教員業績評価, 子どものためのシステムに (毎日99.4.3)

[朝日]

- ・教師は問われつづける (朝日81.1.17)
- ・教師の評価研には前提がある (朝日82.5.21)
- ・教師の国籍をどう考えるのか (朝日82.10.12)
- ・それでも教師に望みたいこと (朝日83.2.17)
- ・性急な教員免許法改正を避けよ (朝日83.6.27)
- ・よい教師は学歴ではつくれぬ (朝日83.11.24)
- ・良い教師を作るには (朝日85.8.12)
- ・鑄型通りの先生にならないか (朝日87.12.20)
- ・重み増す教師の責任 (朝日88.7.16)
- ・先生よ, 本音を語ろう (朝日88.10.28)
- ・新学期に先生たちに (朝日90.4.9)
- ・「教科書で」派の先生を (朝日90.7.2)
- ・先生に期待したいこと (朝日91.1.29)
- ・「藤野先生」を生む条件 (朝日91.8.12)
- ・外国人教師への道は開けたか (朝日91.8.22)
- ・子どもと笑える教師だりうるか (朝日92.1.16)
- ・結婚式に招かれた先生 (朝日92.1.29)
- ・春, 新人の先生に望む (朝日92.4.6)
- ・外国人教師がいてもいい (朝日92.7.12)
- ・先生にもっと自由を (朝日97.1.16)
- ・教員評価, 見当違いの処方せん (朝日99.10.18)

「日教組」関係社説

教員に関係した社説が多いことは、前述の通りであるが、大きな教員団体である日本教職員組合等については、社説数も非常に多いために含めないで紹介した。日本の教職員組合（日教組以外に高教組、私教組、大学職組……）の代名詞的な存在である日教組に関して、各新聞社とも社説で度々取り上げてきた。大別すると、1月か2月の教職員組合主催の全国教研の際と6～7月頃の定期組合大会の際が多いようである。

[朝日新聞]

- ・ 父母と手をつなぐ日教組へ（朝日81.7.7）
- ・ 日教組の危機感と今後の課題（朝日81.7.18）
- ・ 大会を迎える日教組に問う（朝日82.6.22）
- ・ 日教組大会が残した課題（朝日82.7.2）
- ・ 日教組は硬直化を防げるか（朝日83.8.25）
- ・ 日教組が立ち直る道（朝日83.9.4）
- ・ 教研集会が教えたもの（朝日84.2.9）
- ・ 日教組の選択をどう生かす（朝日84.4.25）
- ・ 日教組にいま問われるもの（朝日84.6.22）
- ・ 正念場に立つ日教組（朝日85.7.1）
- ・ まだ目がさめない日教組（朝日87.3.16）
- ・ 日教組に問われているもの（朝日88.7.21）
- ・ 文相は教員組合と対話を（朝日90.6.30）
- ・ 日教組に期待される将来像（朝日94.11.7）
- ・ 教研集会、進むべき道は見えたか（朝日00.2.7）

[毎日新聞]

- ・ 教研30年の節目を大切に（毎日81.1.17）
- ・ 危機に立つ日教組の運動（毎日81.7.14）
- ・ 右傾化の中の日教組大会（毎日82.6.25）
- ・ 再生にかける日教組運動（毎日82.7.2）
- ・ 学校の荒廃と日教組運動（毎日83.8.26）
- ・ 親と手をつなぐ日教組を（毎日83.9.4）
- ・ 教育改革論議と日教組大会（毎日85.7.8）
- ・ 日教組は何をしているのか（毎日86.9.2）
- ・ 日教組大会に求めたいこと（毎日87.6.9）
- ・ 日教組の40年とこれから（毎日87.6.9）
- ・ 再建できるか日教組運動（毎日87.11.25）
- ・ 新しい日教組に必要なこと（毎日88.2.5）
- ・ 日教組の再建に必要なこと（毎日88.7.22）
- ・ いま日教組がなすべきこと（毎日89.9.10）
- ・ 日教組スト判決の問題点（毎日89.12.19）
- ・ 日教組は参加への努力を（毎日90.6.30）
- ・ 新生日教組、第二期への課題（毎日92.9.6）
- ・ 日教組、学校五日制で問われる力量（毎日94.2.1）
- ・ 日教組、「21世紀の教育」構想に期待（毎日94.7.5）
- ・ 文部省、日教組、教育の分権・参加を探れ（毎日95.7.26）
- ・ 日教組大会、学校現場から改革提言を（毎日96.7.2）
- ・ 教研集会、教師の力を発揮する時だ（毎日97.1.18）

- ・ 教研集会、学級崩壊の克服に全力を（毎日00.1.24）
 - ・ 教研集会、創意凝らした総合学習（毎日00.1.30）
- [読売新聞]
- ・ 日教組の「教育重視」は本物か（読売82.7.2）
 - ・ 日教組の新教育運動を見守る（読売83.9.5）
 - ・ 日教組は自己変革できるか（読売85.7.14）
 - ・ 日教組ストに厳しい司法判断（読売85.11.21）
 - ・ 教研集会に二つの顔（読売86.1.23）
 - ・ 日教組はどこへ行くのか（読売86.9.16）
 - ・ 日教組は現場中心の執行部（読売87.8.5）
 - ・ なお遠い日教組再生への道（読売88.2.5）
 - ・ 日教組に求めたい柔軟な姿勢（読売88.7.22）
 - ・ なお宿題を掲げる日教組（読売90.4.5）
 - ・ 宿題をのこ板日教組教研（読売92.2.1）
 - ・ 「協調の日教組」のこれから（読売95.9.5）

5. 社説に見る道徳教育、少年非行・犯罪

21世紀5年間の各紙社説では「道徳教育」を直接に取り上げたものがないことを前稿で言及したが、1981～2000ではどうであっただろうか。それほど多いわけではないが、各誌ともそれぞれ以下のように取り上げていた。いずれも、文部省の道徳教育調査結果の発表に対応して取り上げられていた。

- ・ いま求められる道徳教育とは（朝日1983.4.16）
- ・ 道徳教育にいま何が大切か（朝日83.8.9）
- ・ 道徳教育の進め方の疑問（毎日83.8.14）
- ・ 道徳教育に見る教師と子供（読売83.8.16）
- ・ 体験に根差した道徳教育を（読売94.5.30）

子どもたちの心の荒廃を反映し、道徳教育課題に関係する少年非行・犯罪や校内暴力などについて、下記のように取り上げられていた。

「少年非行、加害者事件・少年法」関係社説
[朝日]

- ・ 家庭内暴力をどう考えるか（朝日81.4.11）
- ・ 背景への目を欠く非行対策（朝日81.7.2）
- ・ 非行への暴走を防げ（朝日81.7.15）
- ・ 怖い非行少年増加の兆し（朝日81.10.18）
- ・ 大人社会を写す少年非行（朝日82.6.25）
- ・ 少年非行はなぜ広がるのか（朝日82.7.18）
- ・ 何が学生を凶行に走らせたか（朝日82.10.8）
- ・ 少年審判は事実認定を厳密に（朝日83.9.8）
- ・ この少年たちの行き場所は（朝日87.8.27）
- ・ 先生を刺した少年と私たち（朝日88.3.25）
- ・ 親たちを殺した少年の心（朝日88.7.11）
- ・ 青少年条例の運用は慎重に（朝日89.9.21）

- ・少年犯罪の広がりを考える (朝日90.10.20)
- ・コンテナで死んだ少年と少女 (朝日91.8.1)
- ・子供の暴力, 荒れる心を見つめよう (朝日98.12.20)
- ・少年法見直し, どちらの案にも疑義あり (朝日98.12.23)
- ・男児殺害事件, 最悪の展開となった (朝日00.2.6)
- ・少年法改正, 票狙いでもてあそぶな (朝日00.4.21)
- ・少年法論議, 頭を冷やして考えよう (朝日00.5.18)
- ・バス乗っ取り, 少年の心の解明を待とう (朝日00.6.6)
- ・少年法改正, 拙速は禍根を残す (朝日00.8.21)
- ・少年法改正, 与党案には疑義がある (朝日00.9.16)
- ・少年法改正, 粗雑にすぎないか (朝日00.11.1)
- ・少年法改正, 残された課題は多い (朝日00.11.29)
- ・少年付添い人, 福岡の朝鮮を全国に (朝日00.12.17)

[毎日]

- ・非行対策に国民的関心を (毎日81.7.2)
- ・暴走族の根絶を目指して (毎日81.7.15)
- ・少年非行は大人社会の鏡 (毎日81.12.14)
- ・非行が増えたというけれど (毎日81.12.28)
- ・少年非行を問う前に (毎日82.10.20)
- ・少年事件にも再審の道 (毎日83.9.8)
- ・高校生仕返し殺人を考える (毎日84.11.13)
- ・非行少年減少というけれど (毎日85.8.24)
- ・少年審判に再審の道を開け (毎日86.1.20)
- ・行革できぬ少年事件の処理 (毎日87.11.11)
- ・少年はなぜ暴発したのか (毎日88.7.10)
- ・少女ランチ事件を考える (毎日88.8.29)
- ・人間性を見失った少年たち (毎日89.4.23)
- ・少年への死刑適用を考える (毎日89.6.29)
- ・普通の若者の異常な犯罪 (毎日89.9.3)
- ・誘拐事件捜査に残した課題 (毎日89.10.13)
- ・防げぬか子どもの誘拐殺人 (毎日89.10.14)

[読売]

- ・芽のうちに摘もう少年非行 (読売82.7.17)
- ・両親殺しにみる家庭のきずな (読売81.3.8)
- ・少年事件に手厚い審判を望む (読売83.9.8)
- ・非行の世論調査をどう読むか (読売83.11.1)
- ・楽観できない少年非行の現況 (読売85.8.24)
- ・何が少年を追い詰めたか (読売88.7.10)

「校内暴力」

- ・校内暴力根絶は的確なメスで (読売81.9.27)
- ・暴力対策にならない管理主義 (読売82.12.9)
- ・荒廃を救うのはやはり教師だ (読売83.2.19)
- ・暴力のない教室を取り戻そう (読売83.4.8)
- ・校内暴力の広がり根の深さ (読売83.6.4)
- ・暴力的訓練は教育ではない (読売83.6.15)
- ・「出席停止」の持つ意味合い (読売83.12.7)
- ・校内暴力の沈静化は本物か (読売84.7.19)
- ・校内暴力の研究から学ぶこと (読売84.4.19)
- ・教育荒廃にどう取り組むか (毎日81.7.7)

- ・授業の建て直しから始めよう (毎日81.11.8)
- ・「出席停止」は緊急避難だ (毎日83.12.8)
- ・校内暴力は減ったが (毎日84.7.19)
- ・校内暴力が招いた先生の死 (毎日85.2.3)

6. 体罰問題といじめ問題

校内暴力の増加への対応策として「毅然とした生徒指導」が重視され、非行の前兆としての服装や頭髪の乱れなどのチェック体制が強化された。その結果、表面的には学校も落ち着きを取り戻していき、他方で、教師の目の届かないところで、陰湿ないじめ問題が増加した。

「体罰」

- ・体罰を加えて生徒は育つか (毎日81.3.9)
- ・体罰禁止を学校に徹底せよ (毎日82.2.24)
- ・体罰からは何も生まれない (毎日82.12.20)
- ・学校の暗部としての体罰 (毎日85.5.12)
- ・体罰教師の実刑判決に思う (毎日86.3.21)
- ・学校ぐるみで体罰の根絶を (毎日87.12.8)
- ・「体罰やむなし」論の危うさ (毎日97.1.7)
- ・体罰と暴行の間 (朝日86.3.19)
- ・体罰はこうしてなくせる (朝日92.4.14)
- ・しごきの施設を生むもの (毎日83.5.27)
- ・「戸塚」の過ちを繰り返すな (毎日92.7.28)

「いじめ」

- ・いじめられっ子が見ている (朝日94.12.17)
- ・清輝君が初めて得た友 (朝日95.11.26)
- ・いじめ情報を父母に示せ (朝日95.12.18)
- ・「いじめ」を乗り越える (読売84.12.12)
- ・忠生中の再生に学ぶこと (読売85.2.10)
- ・「いじめ」の背景を見据えよう (読売85.4.20)
- ・いじめの解決に全力をあげよう (読売85.7.2)
- ・「いじめ」問題を解決するために (読売85.10.4)
- ・「いじめ」の構造と体罰 (読売85.10.25)
- ・「いじめ」解決に攻めの対応を (読売85.12.13)
- ・「いじめ判決」が問う教師の責任 (読売94.5.21)
- ・「いじめ緊急宣言」を生かさそう (読売94.12.10)
- ・小学生の自殺と教師の責任 (毎日85.2.19)
- ・いじめを生む土壌を考える (毎日85.7.22)
- ・いじめの根絶に必要なこと (毎日85.10.28)
- ・いじめと体罰をなくすには (毎日85.12.16)
- ・子どもをいじめから救おう (毎日86.2.17)
- ・いじめ対策に必要な視点 (毎日86.2.25)
- ・なぜ、いじめが見えないのか (毎日86.12.6)
- ・なぜ子供たちは自殺する (毎日88.9.4)
- ・いじめの責任問われた学校 (毎日90.12.28)
- ・「いじめ」はなかったのか (毎日91.3.28)

- ・「いじめ死」をなくすために（毎日93.1.22）
- ・「いじめの構造」解明されず（毎日93.9.17）
- ・いじめ対策、いま、学校が取り組むこと（毎日94.12.14）

7. 学校五日制

2002年度から国公立学校での完全学校五日制がスタートした。1989年改訂の学習指導要領はそのままで1992年9月から毎月1回で始まり、1995年4月から毎月2回に増え、学校五日制を前提とした1998年改訂の新しい学習指導要領と同じ年度の導入であった。臨教審での審議を契機に1986年の社説から取り上げられるようになり、1992年の初めての導入前の90年前後の社説が一番多く、月2回に拡大された95年前後に少し取り上げられていた。98年12月に完全学校五日制のための新学習指導要領が提示される前後には、学校五日制をテーマに入れた社説はみられなかった。下記の社説題目が示すように、各紙とも学校五日制には好意的で、ゆとり教育への期待も表明されていた。

- ・学校五日制を前向きに（朝日86.6.22）
- ・学校五日制と「よく遊べ」の心（朝日88.9.4）
- ・「教育六日制」ではいけない（朝日92.2.22）
- ・ゆとりある学校五日制へ（朝日92.9.6）
- ・五日制で学校改革を急ごう（朝日96.3.23）
- ・学校五日制をどう考えるか（読売86.11.27）
- ・学校五日制を実現させるには（読売89.9.5）
- ・学校五日制の実験に期待する（読売90.6.20）
- ・学校五日制を実りあるものに（読売91.12.24）
- ・ゆとりを生む学校五日制（読売92.2.21）
- ・学校五日制のよさを伸ばす（読売93.9.12）
- ・改めて「五日制」の意義を考える（読売94.10.8）
- ・学校五日制を実現するには（毎日88.9.14）
- ・学校五日制、積極的に推進を（毎日90.5.15）
- ・学校五日制の実現へ努力を（毎日91.10.13）
- ・学校五日制で対話と協議を（毎日92.1.29）
- ・学校五日制で豊かな体験を（毎日92.9.8）
- ・学校五日制、ゆとりと楽しみを奪うな（毎日95.1.11）
- ・学校五日制、家でポケットとするのもよい（毎日95.4.18）

なお、五日制とは別問題であるが、臨教審で話題にもなった9月新学期制には朝日新聞が社説で賛成の意見表明を行っていた。毎日新聞も前向きな反応を示していた。

- ・9月新学期製を考えてみよう（朝日84.2.19）

- ・9月入学制移行を支持する（朝日87.6.7）
- ・9月入学への課題は多いが（毎日87.6.6）

8. 教育の自由化や規制緩和をめぐる

中曽根首相の下での臨時教育審議会で、一部委員から大胆な教育自由化論が提起され、各紙社説でも注目されたが、答申では規制緩和の拡大という方向で落ち着いた。臨教審後に設置された大学審議会を中心に、大学設置基準の大綱化を始めとした規制緩和が進行し、やがて中央教育審議会その他のでの高校教育を含む初等中等教育の規制緩和が拡大されていく。高校学区の拡大や小中学校通学区の弾力化が進み、また、高校総合学科や6年制中等学校の新設なども行われた。自由化や規制緩和と取り上げた社説題目を紹介する。

「自由化・規制緩和」

- ・大学の規制緩和を進めよ（毎日85.8.1）
- ・教育と規制、市場原理だけでは語れぬ（毎日97.5.12）
- ・教育の分権、学校にも教養にも個性を（毎日97.10.17）
- ・教育の分権、しり込みしない挑戦こそ（毎日98.3.1）
- ・中教審答申、教育の分権確かなものに（毎日89.9.23）
- ・学区の自由化、魅力ある学校が大前提だ（毎日99.10.11）
- ・教育自由化の青写真示せ（朝日85.2.7）
- ・教育にもっと自由を（朝日96.8.24）
- ・教育の自由化論議に望む（読売85.1.27）
- ・教育の自由化は消えたのか（毎日85.3.4）
- ・大学の自由化に望むこと（毎日90.8.1）
- ・“転校の自由”を得る条件（毎日84.3.5）
- ・教育臨調に欠かせない視点（読売84.2.3）
- ・何のための「教育臨調」か（毎日84.2.4）

中教審、臨教審その他の教育関係審議会・会議など

「臨教審」

[朝日]

- ・教育改革に必要な視点（朝日84.1.8）
- ・新学期に教育改革を考える（朝日84.4.4）
- ・臨教審法案の審議に望む（朝日4.4.20）
- ・参院での臨教審討議に望む（朝日86.7.14）
- ・多様な議論で教育改革を探れ（朝日84.8.10）
- ・臨教審は討議の過程を大切に（朝日84.8.20）
- ・国民に顔を向けた教育論議を（朝日84.9.6）
- ・臨教審の役割と教育基本法（朝日84.10.14）
- ・誰のために教育を論じるのか（朝日84.10.23）
- ・臨教審専門委のおかしな人たち（朝日84.12.21）
- ・教育改革に現場の声を（朝日85.1.5）
- ・教育自由化の青写真示せ（朝日85.2.7）

- ・教育改革審議に望む (朝日85.4.26)
- ・重ねて臨教審に望む (朝日85.5.10)
- ・教育改革と学歴社会 (朝日85.6.2)
- ・展望開けぬ教育改革 (朝日85.6.27)
- ・臨教審は総合的な審議を (朝日85.10.11)
- ・世界的な視野が必要な教育改革 (朝日85.10.20)
- ・教育改革に対決はいらぬ (朝日85.12.4)
- ・臨教審にほしい姿勢の一貫性 (朝日86.1.24)
- ・臨教審の二次答申に望む (朝日86.4.6)
- ・教育改革の原点を忘れまい (朝日87.1.11)
- ・「臨教審以後」をどう考えるか (朝日87.8.9)

[毎日]

- ・何のための「教育臨調」か (毎日84.2.4)
- ・臨調設置の原点に戻れ (毎日84.3.14)
- ・「私的」機関のあり方を問う (毎日84.3.17)
- ・問題を残す文教懇 (毎日84.3.24)
- ・臨教審法の審議への注文 (毎日84.3.28)
- ・教育改革の望ましい方向 (毎日84.4.23)
- ・教育改革の論議をつくせ (毎日84.6.13)
- ・参院に移った臨教審法案 (毎日84.7.16)
- ・臨教審法は成立したが (毎日84.8.12)
- ・臨教審委員と審議の方向 (毎日84.8.21)
- ・発足した臨教審に注文する (毎日84.9.6)
- ・臨教審と教育基本法見直し (毎日84.11.9)
- ・臨教審はどこへ行くのか (毎日84.12.24)
- ・ボタンを掛け違えた臨教審 (毎日85.5.17)
- ・6月答申にこだわる臨教審 (毎日85.6.9)
- ・教育改革に望まれる視点 (毎日85.10.24)
- ・整合性を欠く臨教審の概要 (毎日86.1.23)
- ・教育を語る政治家の責任 (毎日86.8.3)
- ・教育改革に国際的視野を (毎日87.1.23)
- ・個性重視の教育というが (毎日87.1.24)
- ・具体性乏しい臨教審答申 (毎日87.4.3)
- ・生かしたい民教審の提言 (毎日87.6.27)
- ・新臨教審が作られるなら (毎日87.9.12)

[読売]

- ・教育臨調に欠かせない視点 (読売84.2.3)
- ・教育改革を提起した首相演説 (読売84.2.7)
- ・教育改革を实らせるために (読売84.2.9)
- ・動き出した「教育改革」に望む (読売84.3.28)
- ・「草の根教育改革」に柔軟さを (読売84.6.22)
- ・小異を捨てて教育を考えよう (読売84.7.9)
- ・教育改革はじっくりと (読売84.8.12)
- ・構成が決まった臨教審に望む (読売84.8.22)
- ・臨教審は諮問にどう答える (読売84.9.6)
- ・「教育の自由化」論議に望む (読売85.1.27)
- ・臨教審序盤の審議に思うこと (読売85.4.25)
- ・「すべてはこれから」臨教審 (読売85.6.27)
- ・教育改革の具体化に望む (読売85.7.7)
- ・教育改革は着実、建設的に (読売85.11.29)

- ・臨教審の第二次答申に望む (読売86.1.24)
- ・臨教審をしりすほみにするな (読売87.1.26)
- ・たゆまず教育改革を進めよう (読売87.4.3)
- ・教育改革はこれから始まる (読売87.8.8)
- ・「新臨教審」に期待するもの (読売87.9.10)
- ・「教育改革実施元年」への注文 (読売88.1.11)
- ・「臨教審の10年」とこれから (読売94.12.31)

「中教審など」

[朝日]

- ・新しい中央教育審議会に望む (朝日81.11.18)
- ・教科書で二つの審議会に望む (朝日82.10.29)
- ・おかしな中教審小委の姿勢 (朝日83.5.31)
- ・中教審報告の意義と限界 (朝日83.11.16)
- ・文教懇報告をどう読むか (朝日84.3.24)
- ・教育改革に学ぶ側の声を (朝日86.4.20)
- ・「文相主導」の中教審への疑問 (朝日89.4.28)
- ・中教審に手紙を書こう (朝日90.12.20)
- ・中教審答申、どう生かす「学校の最良」(朝日98.9.22)

[毎日]

- ・中教審を隠れ蓑にするな (毎日81.11.18)
- ・新しい中教審に望むこと (毎日89.4.25)
- ・中教審、教育の後輩、徹底論議を (毎日95.4.24)
- ・中教審、子どもの心に届く提言を (毎日96.1.11)
- ・中教審、教育内容の大幅見直しを (毎日96.4.30)
- ・中教審、徹底的な入試改革論議を (毎日96.7.1)
- ・中教審、入試のない中高一貫に (毎日97.3.6)
- ・中教審、議論が足りない入試改革 (毎日97.5.31)
- ・中教審、存在意義が問われる報告 (毎日99.11.2)
- ・中教審、宿題残した未消化答申だ (毎日99.12.19)
- ・新中教審への期待と注文 (読売95.4.8)

「教育改革国民会議」

- ・教育改革会議、政権のお祭では困る (朝日00.3.30)
- ・教育改革、教育基本法をあげつらうより (朝日00.7.28)
- ・教育改革国民会議、報告は議論の入り口だ (朝日00.9.23)
- ・教育改革会議、解決に役立つだろうか (朝日00.12.23)
- ・教育改革国民会議、重要課題なら覚悟が要る (毎日00.3.26)
- ・教育改革国民会議、大胆だが未消化に過ぎる (毎日00.8.9)
- ・教育改革、理念見直しより投資充実 (毎日00.9.23)
- ・「教育会議」は大胆な提言目指せ (読売00.3.30)
- ・教育改革国民会議、大胆提言が向かう政府のやる気 (読売00.7.28)
- ・教育改革提言、「素人感覚」こそ大事にしたい (読売00.9.23)
- ・教育提言、「心棒」を通すことから始めよう (読売00.11.3)

- ・教育国民会議，提言の改革実行を注視したい（読売00.12.28）

「学制改革・教育改革など」

- ・学校の改革を進める視点（毎日83.4.19）
- ・教育改革への新しい提言（毎日83.7.22）
- ・「習熟度別」中学への疑問（毎日83.10.19）
- ・教育改革をもてあそぶな（毎日83.12.10）
- ・現実に根ざす教育改革を－戦後教育の見直しの方向－（毎日84.1.6）
- ・戦後50年，画一教育に抗して（毎日94.11.7）
- ・戦後50年，知恵を育てる教育を（毎日94.11.8）
- ・教育改革，まず，教室に「ぬくもり」を（毎日95.2.6）
- ・教育改革，個性生かす多様な社会を（毎日00.1.8）
- ・教育改革，理念見直しより投資充実（毎日00.9.23）

[読売]

- ・学制改革に創造的取り組みを（読売83.7.23）
- ・「対立」から抜け出す教育論議を（読売89.12.31）
- ・63制50年の歩みに学ぶもの（読売97.8.15）

9. 「高校」関係社説

各誌とも社説で時々高校問題論じていて，筆者の調査では，20年間で朝日13本，毎日13本を数えたが，読売新聞は31本と，抜きん出て多かった。1981年9月の読売新聞が増え続ける高校中退者への対応について問題提起し，その後も断続的に7回取り上げているが，毎日は3回，朝日1回と，回数は新聞社により異なっているものの，高校中退者の増加が高校改革を促し，総合学科や単位制を導入した取り組みが行われてきた。

[毎日新聞]：13本

- ・だれのための公立高校か（毎日82.3.21）
- ・高校入試の改革に望む（毎日83.4.20）
- ・身勝手な高校の定員割れ（毎日84.10.4）
- ・許せぬごまかしの高校入試（毎日88.3.10）
- ・減らさねばならない高校中退（毎日88.4.5）
- ・必要なのか6年制中等学校（毎日88.4.20）
- ・高校中退者に復学の道を（毎日91.2.9）
- ・忘れ去られた高校就職戦線（毎日91.9.30）
- ・あいまいな高校の総合学科（毎日92.7.1）
- ・総合学科への期待と注文（毎日93.2.14）
- ・高校家庭科の男女共修に期待（毎日94.3.21）
- ・変わる高校，魅力ある学び場作りを（毎日97.12.24）
- ・高校中退，やり直し聞くシステムに（毎日98.3.3）

[朝日]

- ・高校長の死は訴える（朝日82.3.26）
- ・どう受け止める高卒の就職難（朝日82.11.5）

- ・高校入試の問題点はどこか（朝日83.4.25）
- ・生徒を裏切らぬ職業教育（朝日84.6.27）
- ・いま「高校」とは何なのか（朝日85.4.4）
- ・高校の転校を容易に（朝日85.10.3）
- ・小手先ではすまぬ高校改革（朝日86.12.10）
- ・職業教育見直しは広い視野で（朝日87.6.18）
- ・高校中退は本人が悪いのか（朝日87.6.24）
- ・高校生に読書の楽しみを（朝日91.5.8）
- ・高校入試の「多様化」とは（朝日92.8.30）
- ・「総合学科」高校が育つ条件とは（朝日93.2.14）
- ・高校就職難，大人の責任は大きい（朝日99.12.20）

[読売]

- ・増え続ける高校中退への対応（読売81.9.21）
- ・大学離れが要求する高校改革（読売81.11.11）
- ・偏差値を乗り越える高校生に（読売83.2.25）
- ・課題の多い高校の入試改善策（読売84.6.24）
- ・魅力ある職業教育の再生を（読売84.6.27）
- ・高校中退10万人時代を考える（読売84.10.7）
- ・生き生きとした職業高校作りを（読売85.2.28）
- ・高校中退者が突きつけるもの（読売87.6.24）
- ・「6年制中学」が育つ条件（読売88.4.6）
- ・魅力ある高校をもっと増やせ（読売89.1.29）
- ・いまなぜ4年制高校か（読売89.4.27）
- ・高校中退はもっと減らせる（読売89.5.15）
- ・高校中退者を減らすための条件（読売90.3.20）
- ・高校の多様化をはばむもの（読売90.4.17）
- ・単位制高校に期待するもの（読売90.9.18）
- ・高校改革を実現させよう（読売91.1.6）
- ・中退者に「復学」の道を開こう（読売91.2.14）
- ・高校の転入学をもっと円滑に（読売91.7.17）
- ・高校中退を減らすために（読売92.2.17）
- ・個性的な高校を実現させよう（読売92.6.30）
- ・高校入試の多様化・多元化を急げ（読売92.8.30）
- ・「単位制」総合学科」高校への期待（読売93.2.14）
- ・高校の個性化は地方が主役（読売93.4.26）
- ・高校改革に一層の努力を望む（読売93.12.20）
- ・職業高校のリストラを急げ（読売94.7.18）
- ・高校改革を加速させるとき（読売95.2.18）
- ・「専門高校」に期待するもの（読売95.3.11）
- ・高校の個性化に必要な視点（読売96.1.24）
- ・高校不適応を減らしたい（読売98.12.31）
- ・多様な生徒を伸ばす高校教育を（読売99.3.2）
- ・高校の統廃合を改革の好機に（読売99.9.27）

「専門学校」関係社説

学校教育法1条で定められた「1条校」ではないが，1975年の学校教育法改正で登場した専修学校の中で高校卒業者を入学資格とした専門学校が1980年代に増加し，大学でも短期大学や高専でもない新しい高等教育機関として学生を集めてきたが，教育の質を

めぐって批判も少なくない。社説にまで取り上げられることはあまりないが、それでも以下のような社説もあった。

- ・ 認識を深めたい専修学校制度 (読売85.3.21)
- ・ 専修学校によりよい明日を (読売87.1.13)
- ・ 質の向上を迫られる専門学校 (読売91.8.16)
- ・ 専門学校の質の向上を急げ (読売94.3.16)
- ・ 専修学校の質を高めるには (毎日87.1.13)

10. 「読書活動、図書館、活字文化など」

[朝日]

- ・ 読書週間に漫画も考えよう (朝日86.10.28)
- ・ 読むということ (朝日83.10.28)
- ・ 本に飢えていた頃のこと (朝日93.10.27)
- ・ 読書週間、本の逆襲が始まった (朝日98.10.27)

[毎日]

- ・ 読書感想文と子供たちの心 (毎日81.2.6)
- ・ “考える”をつくる読書 (毎日81.10.28)
- ・ 読書がドラマを生むとき (毎日83.2.6)
- ・ あなたは本を読みますか (毎日84.10.7)
- ・ すばらしい読み手を育てて (毎日87.2.9)
- ・ 学校図書館に専門の教員を (毎日87.2.29)
- ・ 読書の喜びを広げるために (毎日87.10.28)
- ・ 本を読む人、読まない人 (毎日88.10.31)
- ・ 子どもの本離れを防ぐには (毎日91.10.29)
- ・ 読書拡充への条件整備を (毎日92.2.6)
- ・ 読書教育を充実させよう (毎日92.10.28)
- ・ 教育、「読書いっぱい」町ぐるみで (毎日93.2.6)
- ・ 読書、子供の本の情報基地作ろう (毎日94.2.3)
- ・ 読書感想文、知性と感性を育てて40年 (毎日95.2.3)
- ・ 読書感想文、本は自由に楽しく読もう (毎日96.2.1)
- ・ 読書感想文、本を読める環境にしたい (毎日97.2.7)
- ・ 読書調査、先生も本を読んでほしい (毎日97.11.3)
- ・ 読書感想文、本を読む楽しさをみんなに (毎日99.2.8)
- ・ 読書感想文、実りある「子ども読書年に」(毎日00.2.4)

[読売]

- ・ 本好きにする図書館活動 (読売81.10.27)
- ・ 本は人間を深く見つめさせる (読売82.10.28)
- ・ 読書の楽しみを忘れた人に (読売83.10.30)
- ・ 子供たちに読書の喜びを (読売84.10.28)
- ・ 「読書週間」より「読書習慣」を (読売85.10.28)
- ・ いい本に出会う喜び (読売86.10.28)
- ・ 新人類世代が開く「軽読書」時代 (読売88.10.29)
- ・ 「本との対話」は子供の時から (読売91.10.29)
- ・ 子供の読書離れはとめられる (読売92.10.27)
- ・ 子供にもっと本の楽しさを (読売93.10.31)
- ・ 本好きの子をもっと増やそう (読売94.11.4)
- ・ 子供が活字に親しむために (読売96.10.27)
- ・ 本を友にする子どもに育て (読売00.5.5)

11. 「生涯学習」関係社説

中曽根臨教審は教育改革の基本原則として、個性重視、生涯学習への移行、社会の変化への対応をあげていたが、生涯学習を直接に取り上げた社説には次のものがある。

[朝日]

- ・ 学習国歌をめざして (朝日81.1.13)
- ・ 生涯に渡る教育の意味 (朝日81.3.16)
- ・ 生涯教育へ向かう婦人 (朝日81.3.29)
- ・ 生涯学習社会への移行を急げ (朝日87.7.13)
- ・ 生涯学習に家元はいらない (朝日88.6.14)

[毎日]

- ・ 学習社会を実現させるには (毎日81.6.13)
- ・ 生涯学習社会のための条件 (毎日88.7.19)
- ・ 生涯学習は柔軟な発想で (毎日88.12.7)
- ・ 学校改革が生涯学習の基本 (毎日90.2.6)
- ・ 生涯学習の原点を見失うな (毎日90.5.13)
- ・ 生涯学習社会を築く条件 (毎日92.5.16)
- ・ 生涯学習社会への一歩前進 (毎日92.8.2)

[読売]

- ・ 生涯を通じて学習する社会へ (読売81.3.15)
- ・ 生涯学習の時代に必要なこと (読売88.6.20)
- ・ 「生涯学習時代」への道筋 (読売88.12.7)
- ・ 生涯学習社会へ向けて (読売89.11.5)
- ・ 生涯学習社会に必要な心配り (読売90.2.1)
- ・ 生涯学習とボランティア (読売91.9.17)
- ・ 生涯学習の実現に向かって (読売92.8.7)

12. 「家庭教育、親の在り方など」

「こどもの日」の社説の多くが家庭教育や親の在り方について論じていたが、年間を通じて、以下のような社説も時々取り上げられていた。

[朝日]

- ・ 親の責任を追及すればすむか (朝日81.2.22)
- ・ いま親であることの責任 (朝日81.5.5)
- ・ 親は子どもとどうつきあうか (朝日82.5.5)
- ・ 家族像は誰が描くのか (朝日83.10.29)
- ・ 離婚と子ども (朝日84.9.27)
- ・ お父さんの背中 (朝日85.11.1)
- ・ 「ダメお父さん」だろうか (朝日88.6.19)
- ・ 家庭の味をすべての子らに (朝日89.3.20)
- ・ 父子家庭にも目を向けよう (朝日90.6.17)
- ・ 父親も育児を楽しむために (朝日91.2.22)
- ・ 新しい家族像にほしい視点 (朝日92.11.15)
- ・ 親が「鬼」になるとき (朝日96.4.19)
- ・ 家族像にお手本はない (朝日97.6.27)
- ・ 「子育ての幸せ」はどこから (朝日97.10.30)

- ・家庭教育手帳，親のつらさをくんで（朝日99.3.29）
[毎日]
- ・子育てに親のあせりは禁物（毎日81.2.22）
- ・家庭の教育機能を回復せよ（毎日81.8.31）
- ・家庭援助クラブへの期待（毎日82.7.29）
- ・「しつけ」をめぐる親の意識（毎日83.3.8）
- ・「親子関係」を考える一石に（毎日85.11.9）
- ・離婚の自由と子供の幸せ（毎日85.12.17）
- ・親子で自然を共感しあおう（毎日92.7.21）
- ・子供のしつけ，豊かな自然体験も必要だ（毎日00.5.8）
[読売]
- ・両親殺しにみる家庭のきずな（読売81.3.8）
- ・影が薄い父親たちの「自画像」（読売82.7.9）
- ・見つめなおそう家庭の役割（読売87.12.19）
- ・親の叫びが聞こえないのか（読売89.2.15）
- ・家庭教育へお父さんの出番（読売96.8.11）
- ・子育てを家庭から見直したい（読売97.10.14）
- ・家庭の子育てを問い直そう（読売98.2.4）
- ・子育ての見直しは家庭から（読売98.4.3）

13. 「体育・スポーツ」関係社説

10月（10日→第二月曜日）の「体育の日」には、各紙とも、子供や大人の体育振興に関する社説を掲げることが多い。また、高校野球についてはほぼ毎年、3月下旬には「センバツ」を主催する毎日新聞が、8月には夏季大会を主催する朝日新聞が、高校球児や国民に社説でメッセージを送ってきている。

[朝日]

- ・甲子園大会の開幕に当たって（朝日81.8.7）
- ・みんなスポーツをしたいのに（朝日82.10.10）
- ・緑，未来，甲子園（朝日83.8.7）
- ・高校野球が始まった（朝日84.6.17）
- ・甲子園は何に拍手を送るのか（朝日84.8.7）
- ・甲子園の夏は普段着で（朝日85.8.7）
- ・生涯スポーツをめざそう（朝日85.10.10）
- ・夏祭り・甲子園の開幕（朝日86.8.8）
- ・部活の功罪を考える（朝日86.9.28）
- ・子供の体づくりこそ大切だ（朝日87.10.10）
- ・70回，古くて若い甲子園（朝日88.8.7）
- ・甲子園がなぜ面白いのか（朝日89.8.8）
- ・甲子園のすそ野に広がるもの（朝日90.8.7）
- ・高校野球の「ロマン」とは（朝日92.8.10）
- ・変わる，変わらぬ甲子園（朝日94.8.7）
- ・さあ，甲子園を楽しもう（朝日96.8.8）
- ・高校野球も変わらなくちゃ（朝日97.8.8）
- ・スポーツ振興，入れ物より人の充実を（朝日98.5.27）
- ・甲子園開幕，80回の歩みを背に（朝日98.8.5）

- ・高校野球，のびのびと楽しく（朝日99.8.7）
- ・甲子園開幕，白球に思いを込めて（朝日00.8.8）
[毎日]
- ・センバツの開幕に寄せて（毎日81.3.27）
- ・“センバツ”に青春の炎を（毎日82.3.26）
- ・センバツがやってきた（毎日83.3.26）
- ・センバツの春，華やかに（毎日85.3.25）
- ・センバツ復活から40年（毎日86.3.26）
- ・健康スポーツの場を作ろう（毎日86.10.10）
- ・中学生が国体に出る条件（毎日86.11.15）
- ・センバツの春に寄せる（毎日87.3.26）
- ・スポーツ懇が見失ったもの（毎日88.3.21）
- ・体育とスポーツの間（毎日88.10.9）
- ・展望開けぬスポーツ振興法（毎日89.10.10）
- ・スポーツ振興の発想転換を（毎日90.10.10）
[読売]
- ・子供の生活にも体力づくりを（読売81.10.10）
- ・むしろ積極的な体育授業を（読売82.7.18）
- ・体育会の暴力体質を一掃せよ（読売86.7.10）
- ・スポーツ指導画一化を排せ（読売86.11.9）
- ・中学生の国体参加へ前向きに（読売86.11.26）
- ・気軽にやろうよ，生涯スポーツ（読売88.10.10）

14. 「留学生，国際交流・国際協力など」

[朝日]

- ・国連大学を平和のトリデに（朝日81.5.27）
- ・日本人留学生の犯罪に思う（朝日81.7.5）
- ・残念なソ連教育相の来日中止（朝日81.10.29）
- ・海外子女教育を重視せよ（朝日81.11.17）
- ・国立大を外人教授に広く開け（朝日82.4.21）
- ・途上国と日本を結ぶ青年（朝日82.7.31）
- ・教師の国籍をどう考えるのか（朝日82.10.12）
- ・海外子女教育で問われるもの（朝日83.8.19）
- ・増員では片付かぬ留学生問題（朝日84.7.8）
- ・心の国際化とナショナリズム（朝日87.1.1）
- ・米大学の日本進出を考える（朝日87.3.11）
- ・研究の国際化と文化の差（朝日87.12.25）
- ・海外日本人学校に新風を（朝日88.1.18）
- ・海外修学旅行の痛ましい事故（朝日88.3.20）
- ・留学生に大きな援助を（朝日88.4.19）
- ・「青年の船」はどこへ（朝日88.5.4）
- ・「就学生」問題の対策を急げ（朝日88.11.22）
- ・外国人教師への道は開けたか（朝日91.8.22）
- ・外国人教師がいてもいい（朝日92.7.12）
- ・ふところの深い留学生対策を（朝日92.7.21）
- ・ボスニアの子らが待っている（朝日92.10.11）
- ・日本語教育は国際化の窓だ（朝日93.7.16）
- ・フルブライト氏に学ぶ（朝日95.2.11）
- ・留学生センターが消えるとき（朝日97.3.23）

- ・教育サミット、情報化への期待と懸念（朝日00.4.5）
- [毎日]
- ・外国人教授への大学開放（毎日82.3.1）
 - ・留学生は文化の“かけ橋”（毎日83.7.6）
 - ・国際化を進める帰国子女（毎日83.8.19）
 - ・留学生受け入れは皆で（毎日83.10.21）
 - ・「留学生十倍増」の条件（毎日84.7.11）
 - ・外国人にも教員の門を開け（毎日84.12.29）
 - ・韓国学生の提起した問題点（毎日85.5.2）
 - ・海外で奉仕の若者に声援を（毎日85.10.20）
 - ・海外子女教育を進める視点（毎日86.6.4）
 - ・高校生の日中交流に考える（毎日86.10.28）
 - ・日本語教育を考える視点（毎日88.3.18）
 - ・「留学生問題」が意味するもの（毎日88.4.25）
 - ・国際社会を生きる君たちへ（毎日89.1.15）
 - ・海外留学の危険を考える（毎日89.6.20）
 - ・1万人目の青年海外協力隊（毎日90.5.6）
 - ・留学生に選ばれる環境を（毎日90.5.9）
 - ・子どもサミットへの期待（毎日90.9.30）
 - ・教室の国際化に対応急げ（毎日92.4.23）
 - ・留学生支援は官学民一体で（毎日92.7.22）
 - ・教育、「顔のある日本人」の育成を（毎日93.3.16）
 - ・教育の国際化、留学生倍増新たな決意で（毎日00.4.18）

[読売]

- ・青年海外協力隊を支援しよう（読売82.1.18）
- ・留学生は将来の“架け橋”だ（読売82.4.5）
- ・留学生の学位取得をやさしく（読売82.10.7）
- ・帰国子女を温かく迎えよう（読売83.8.18）
- ・留学生受け入れに目を開こう（読売83.9.19）
- ・留学生受け入れに何が必要か（読売84.7.5）
- ・海外で日本語を学ぶ人のために（読売85.12.4）
- ・留学生と社員寮での交流を（読売88.4.14）
- ・留学生支援に民間の協力を（読売88.4.25）
- ・日本留学以後を考えよう（読売88.8.23）
- ・放置できない留学生問題（読売88.11.24）
- ・日本語学校の質の向上を急げ（読売88.12.28）
- ・広げたい留学生センター計画（読売89.3.7）
- ・帰国子女の教育を生かさそう（読売89.10.28）
- ・留学生受け入れ態勢の充実を（読売90.3.12）
- ・子供サミットと日本の課題（読売90.9.29）
- ・留学生受け入れ態勢の強化を（読売92.5.4）
- ・留学生受け入れ環境の充実を（読売92.7.20）
- ・教育の国際化になすべきこと（読売93.12.31）
- ・男児の国籍は認められたが（読売95.1.28）
- ・留学熱に水さす大学の貧困（読売99.3.1）

15. 「学習指導要領・教育課程」

[朝日]

- ・「生活科」に注文する（朝日86.6.6）

- ・「社会科」の再編で感じる事（朝日86.7.25）
- ・あいまいな教育課程の改定店（朝日86.9.21）
- ・世界史は大切だ、しかし（朝日87.11.15）
- ・学習指導要領作りを注視する（朝日87.12.20）
- ・指導要領案に問題がある（朝日88.5.17）
- ・学習指導要領は個性重視か（朝日89.2.12）
- ・教育課程、子どもたちに釣りざおを（朝日98.6.27）
- ・指導要領、「総合学習」を生かすには（朝日98.11.19）

[読売]

- ・生活科創設の前提を考える（読売86.7.31）
- ・変わる教育課程で心配なこと（読売86.10.22）
- ・生活科の授業に望むこと（読売88.4.26）
- ・新指導要領への期待と注文（読売88.7.28）
- ・新指導要領を根付かせるには（読売98.11.19）
- ・指導要領の積極的な先取り（読売99.6.3）

「教科書問題」

[朝日]

- ・教科書論議は現実を踏まえて（朝日81.3.9）
- ・教科書の「公正」とは何か（朝日81.7.13）
- ・教科書でやってはならぬこと（朝日81.8.10）
- ・教科書批判は本質に迫れ（朝日82.4.9）
- ・「教科書」で首相は決断せよ（朝日82.8.13）
- ・教科書問題の新たな始まり（朝日82.8.27）
- ・沖縄が「教科書」で問うもの（朝日82.9.6）
- ・教科書論議をどう進めるか（朝日82.9.16）
- ・教科書で二つの審議会に望む（朝日82.10.29）
- ・終わりにできぬ教科書問題（朝日82.11.18）
- ・教科書でいま真に必要なこと（朝日83.7.2）
- ・視野狭い教科書いじりの危険（朝日84.7.2）
- ・検定は文部省まかせでよいか（朝日86.3.20）
- ・なぜ今こんな教科書を（朝日86.5.30）
- ・教科書制度の基本を見直そう（朝日86.7.10）
- ・子どもたちのための教科書を（朝日88.9.25）
- ・改善にならぬ教科書検定制度（朝日89.3.12）
- ・多様な教科書が生まれる条件（朝日89.7.2）
- ・だれのために教科書を作るか（朝日91.7.1）
- ・教科書訴訟の成果を生かせ（朝日93.3.17）
- ・教科書検定はこれでいいのか（朝日93.7.1）
- ・検定はもっと広く穏やかに（朝日94.7.4）
- ・検定が「真理」を決めるとき（朝日96.6.28）
- ・教科書検定、不透明さが見えた（朝日98.4.24）
- ・教科書検定、透明化を実効あるものに（朝日98.11.14）

[毎日]

- ・いま、なぜ教科書が問題化（毎日81.3.15）
- ・誰のための教科書改訂か（毎日81.4.26）
- ・教科書改革、これでよいか（毎日81.6.7）
- ・教科書検定は教育的立場で（毎日81.7.12）
- ・教科書を食い物にするな（毎日81.8.5）
- ・教科書の規制を強めるな（毎日81.9.14）

- ・教科書検定への著者の不満 (毎日82.1.7)
 - ・教育から逃げた教科書判決 (毎日82.4.9)
 - ・教科書制度見直しへの注文 (毎日82.5.4)
 - ・教科書検定の暗いイメージ (毎日82.6.27)
 - ・過去に学ぶ教科書こそ必要 (毎日82.7.26)
 - ・教科書問題の原点を考えよ (毎日82.8.16)
 - ・教科書問題の反省を生かせ (毎日82.8.27)
 - ・沖縄の教科書問題は訴える (毎日82.9.9)
 - ・教科書問題を外交に生かせ (毎日82.9.11)
 - ・是正すべきは検定制度だ (毎日82.9.13)
 - ・教科書問題は終わらない (毎日82.11.18)
- [読売]
- ・走り過ぎないか教科書批判 (読売81.3.7)
 - ・教科書会社の教育的責任 (読売81.4.26)
 - ・あまりにも性急な教科書改革案 (読売81.6.10)
 - ・教科書会社のモラルを問う (読売81.8.6)
 - ・教科書論争に必要な教師の目 (読売82.2.2)
 - ・家永訴訟は国民に何を教えたか (読売82.4.9)
 - ・教科書作りの密室性を排せ (読売82.6.27)
 - ・教科書作りの「公正さ」を問う (読売82.8.7)
 - ・教科書問題が教えた政治体質 (読売82.8.27)
 - ・検定問題の新たなスタート (読売82.9.11)
 - ・教科書検定問題は終わったか (読売82.11.17)
 - ・検定、採択を現場はどう見るか (読売82.12.3)
 - ・教科書は画一化へ進まないか (読売83.5.31)
 - ・検定が見せた役割と限界 (読売83.7.2)
 - ・なぜ繰り返す教科書検定騒ぎ (読売86.7.10)
 - ・検定制度見直し案への疑問 (読売88.9.23)
 - ・適切さを欠いた英語教科書 (読売88.10.7)
 - ・「検定の公開」を十分に生かせ (読売89.3.11)
 - ・教科書検定から対立をなくせ (読売89.10.4)
 - ・よりよい教科書作りに向けて (読売91.7.1)
 - ・行き過ぎを戒めた教科書判決 (読売93.10.21)
 - ・「学びやすい教科書」を増やそう (読売95.7.2)
 - ・子供にとって「いい教科書」とは (読売97.8.30)

新政権のもとで、義務教育段階を中心とした規制強化と規制緩和が同時進行しそうな情勢であり、教育がますます政治に振り回されそうな時代を迎えている。その点で、新聞社説での教育関係記事の出番が益々多くなるのであろうか。今回もまた、社説題目の概観にとどまり、社説内容に踏み込んだ考察が不十分になったことをお詫びし、今後の課題としたい。1981年1月から2000年12月までの21世紀末20年間の各年度別教育関係社説題目一覧を、各紙各年度の縮刷版から作成してみたが、前稿の2001～2005年の5年間と異なり、今回は1981～2000の20年間の考察の対象としたため、社説数が膨大となり16ページ以内という本誌の規定に収まらないため、全国紙3紙に限定し、また、年代順の社説題目一覧ではなく、主な分類テーマを取り扱う中で各紙の社説題目の紹介を試みた。

(岩見沢校教授)

おわりに

小泉首相の後継者に選出された安倍晋三氏は、自民党総裁選に向けてこの7月に「美しい日本へ」という新書を出版した。その「第7章 教育の再生」の冒頭で「誇りを回復させたサッチャーの教育改革」を掲げ、サッチャー元首相を見習い、政治主導で教育改革を進め、愛国心教育と学校選択制の拡大に強い意欲を示している。国立大学の法人化や競争原理の導入（や郵政民営化）を強行した小泉構造改革を支え受け継ぐことにもなる安倍